

津々浦々

⑤6

津久見市長 吉本章司

「つくみイルカ島」

来場者30万人突破

先月の11日につくみイルカ島に30万人目のお客様がいらつしやいました。昨年からは、宮崎方面の来訪者が増えてきているのは、東九州自動車道の延伸効果であり、今後佐伯蒲江間が全面開通すれば更なる集客効果が見込めるものと期待しております。

昨年の6月号でも触れましたが、せっかく津久見に来てくださったお客様にはイルカ島だけでなく、市街地の商店や飲食店にもぜひ立ち寄っていただきたいと常々考えておりました。そこで観光協会と協議をし、昨年からは「津久見ひゅうが丼キャンペーン」を実施していただいております。

「ひゅうが丼」は

保戸島発祥の郷土料理

そもそも「ひゅうが丼」は保戸島地区のマグロ漁師が忙しい漁の合

間をぬって食べていた「漁師飯」で、ゴマだれをベースにした味付けは、大分県内で広く親しまれている「りゅうきゅう」とは一線を画した保戸島特有の郷土料理です。

5年ほど前までは、数店舗がメニューに載せているという程度でしたが、保戸島婦人会のご協力のもと、観光協会が中心となつて市外から参加者を募り体験会ツアーを開催したり、市内の店舗が集まって勉強会を開いたりすることで、提供店舗を増やす取組みや、市と漁協などの関係団体が協力をして、市内の小学生を対象に親子料理教室などを開催することで広く市民の方々に知っていただく活動を地道に続けてまいりました。

その甲斐あって、大分県のグルメグランプリ金賞受賞や県内外イベントからの出店依頼、またテレビ番組での紹介などで、市外・県外にも徐々に認知度が高まってきました。

当初、「ひゅうが丼」という名称でと考えておりましたが、宮崎県

の日向と混同されてしまうこと、また地域名称がないとどこの料理か分からず認知度が高まりづらいことから、「津久見ひゅうが丼」という名称にいたしました。あくまでも津久見市保戸島が発祥の地ということをご皆さんに再度ご理解いただければと思います。



津久見ひゅうが丼

津久見をもっと知ってほしい

さて、津久見市ではもともと港まつりの花火大会や扇子踊りなどの時期は、他の季節に比べても来

訪者が多く、それに加えてイルカ島のお客様も増える夏に「なんとかもっと津久見の良さを知ってほしい」という思いと「ひゅうが丼」＝漁師飯＝スタミナ補給という考えがマッチした結果、「津久見ひゅうが丼キャンペーン」という形となりました。

昨年3か月で8897食の売り上げがありました。今年の7月は3170食を売り上げており、昨年以上の好スタートを切つてキャンペーンが始まっています。何とか目標の10000食を超えて欲しいと願っておりますので、市民の皆さんも口コミでぜひ市外のお知り合いを誘っていただければと思います。

これから秋・冬を迎え、今年で4年目となる「津久見モイカフエスタ」や津久見の代表的な産物である温州みかんの旬の時期も控えています。また年が明ければ四浦半島の河津桜の開花の便りも聞こえてきて市外からたくさんのお客様が訪れやすくなります。

市外からの来訪者が堅実に増える中、更なる観光施策を考えたいと思いますので、市民の皆様方より一層のご協力をお願いいたします。